

## 理系出身監督官インタビュー

平成 27 年度任官

### 現在の仕事内容

クレーンやボイラーなどの検査、労働災害発生時の原因特定や再発防止対策指導のための調査、石油化学コンビナート地区の事業場からの新規の反応器、蒸留器などの計画届の審査などを行っています。

### 志望動機

理工系の採用枠があることから監督官の仕事を知りましたが、法律だけでなく理工系の知識を生かせる点に興味をわいたため志望しました。

### 大学時代の専攻分野と業務への活用エピソード

大学時代は分子生物学関係の研究室に所属し、大腸菌を利用して、DNA から目的のタンパク質を発現させる実験などを行っていました。例えばコンビナートでは、蒸留、分解などを行い、原油から様々な石油化学製品が生産されていますが、計画届の審査、現場調査などの業務の際、これらの化学的な考え方の理解にあたっては大学時代の実験の経験が生きていると感じます。

### 労働基準監督官の魅力について

あらゆる業種、産業の現場に関わるので、自分の専攻分野以外の様々な分野に接する機会が多い職業です。研究者等の方が専攻分野をより深く、直接的に生かすことができると思いますが、監督官の仕事の魅力は、今まで自分が触れることのなかった世界に触れることにより、自分の興味の幅や視野が広がることだと思います。



### 理系の学生に伝えたいメッセージ

人が働くあらゆる現場が対象となるので、程度はあれ必ず理工系としての経験を生かすことができる場面に遭遇すると思います。少しでも監督官という職業に興味を持ったのなら、将来の選択肢の一つにしてみてください。

### ○仕事風景

#### <工場における監督指導>



#### <計画届等の審査>

